

キタ！からきた



だより

第162号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。

kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛

「こんなところに社会福祉士がいた！」

＜大阪北支部・会員リレー紹介 048＞ レポーター（菅野幸里）



今回ご紹介する河野泉さんは、大阪市北区社会福祉協議会の嘱託職員として、北区の生活困窮者自立相談支援窓口にて勤務をされています。大学を卒業されてから10年以上、社会保険診療報酬支払基金で事務職をされており、ケアマネの仕事を見ている中で、「課題解決型で働くことが好きかもしれない」と相談援助職に興味を抱かれ、社会福祉士の資格を取得されました。



資格取得後は生活保護のケースワーカーの仕事を経て、現在の職場に「来たくて来た」と話す河野さん。生活困窮者の相談窓口には、経済的な課題だけでなく、幅広い世代の様々な内容の相談が寄せられます。河野さんは生活保護の知識があることに加え、広く学んだ知識を活かし、「見通しを持って相談業務が出来ると思ってこの仕事を選んだ」とのことです。

一番大変だったことは、コロナ禍において住居確保給付金や貸付金を求めて、連日窓口の前に長蛇の列ができていたときだと振り返られます。そんな大変な時期を乗り越えられてきた河野さんに、社会福祉士として大切にしていることを聞いてみました。「相談者自身が元気になったり、行動変容が起こるような働きかけをすることや、課題を整理し、優先順位を一緒に考えながら、最終的に相談者が自己決定できるように相談援助を心がけています。」とお聞きし、その信念の強さこそが、困難を乗り越える原動力となっていたのだと確信しました。

「社会福祉士会では様々なつながりを大切にし、新しい視点や知識をもつことができることから、ぜひ知り合いの社会福祉士の方に社会福祉士会を勧めてほしい！」

と熱く語っておられた河野さん。自分の中にある信念や、それを共有する仲間がいかに大切かということ学ばせていただきました。

『折れない心を育てるいのちの授業（2023/12/09）報告』

明けましておめでとうございます。本年も大阪北支部をよろしく願いいたします。去る、12月9日（土）に支部では2回目となる「折れない心を育てるいのちの授業」（オンライン研修会）を実施させていただきました。当日は、33名の方が参加していただき、大阪北支部会員だけではなく他支部会員さまや、会員以外の方も多数ご参加いただきました。講師を務めてくださった田中宏幸氏は、たくさんの小学校や中学校の教育現場より本講座の依頼を受けて講義されていますが、今回2回目となる北支部では、第1回目の小学生向けではなく中学生への講義で使う資料と内容をご講義くださいました。日頃、相談援助をおこなう社会福祉士としてクライアントの話を「聴かせていただく」ことや、面接技法の中の「反復」「沈黙」などの大切さを改めて学ばせていただく機会となりました。今回の参加者の方も大変ご満足いただけた研修内容でしたので、アンケート感想より一部を紹介させていただきます、今回の研修報告にかえさせていただきます。

（アンケートより）

「苦しみがあっても支えとなる関係と将来の夢があれば穏やかになれるということが、確認できたので折れない心を保てるような気がします。」

「モヤモヤなど苦しみとは希望と現実のギャップの開きから生まれると言語化で理解できたことです。」

◆解決困難な苦しみ

◆励ましが通じない

◆自分が誰からも

必要とされていないと感じる



◇苦しみから支えに気づく

◇苦しむ人を前に

私にもできることがある

◇自分を認め、大切に



★大阪北支部公式 LINE アカウントのお知らせ（※他支部の方の登録也大歓迎です！！）

情報が早い！情報が手元に届く支部公式 LINE。現在、160名を超える会員が登録されています。

LINEの「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するか QRコードをスキャンしてください。

